

県民との意見交換会等の開催状況について

長野県県民文化部
信濃美術館整備室

1 県民との意見交換会

松本透 信濃美術館整備担当参与が、広く県民の皆様と意見交換を行い、「信濃美術館整備基本構想」(H28.11月策定)の周知を図るとともに、新美術館に寄せる期待や思いを直接お聴きし、県民参加による美術館づくり推進のために開催

(1) 開催状況

対象等	開催日	場 所	参加者
北 信	平成 29 年 2 月 24 日 (金)	信濃美術館	25 名
南 信	平成 29 年 3 月 14 日 (火)	飯田創造館	20 名
中 信	平成 29 年 4 月 13 日 (木)	松本合同庁舎	35 名
東 信	平成 29 年 4 月 26 日 (水)	東信教育事務所 (小諸市)	25 名
学生等	平成 29 年 5 月 29 日 (月)	信州大学松本キャンパス	87 名

(2) 主な意見等

- ① 4地区の意見交換会の概要は、別添4のとおり。
- ② 学生との意見交換会の概要は、別添5のとおり。

2 県民フォーラム

信濃美術館の基本設計が本格的に始まるのに合わせ、新しい美術館像について県民の皆様と考える「信濃美術館整備キックオフ・フォーラム」を開催

(1) 開催状況

日 時：平成 29 年 7 月 15 日 (土) 午後 2 時～4 時 30 分

場 所：長野市若里市民文化ホール

内 容：設計者による講演、パネルディスカッション、意見交換

参加者：120 名

(2) 主な意見等

意見の概要は、別添6のとおり。

松本参与と県民との意見交換会（ミニ・フォーラム）概要

文化政策課 信濃美術館整備室

地区	日時	場所	参加者
北信	平成 29 年 2 月 24 日（金） 13:00～14:40	信濃美術館	25 名
南信	平成 29 年 3 月 14 日（火） 13:30～15:10	飯田創造館	20 名
中信	平成 29 年 4 月 13 日（木） 13:00～14:40	松本合同庁舎	35 名
東信	平成 29 年 4 月 26 日（水） 13:00～14:35	東信教育事務所	25 名

主な意見等

【全体】

- 長野市は中信地区からは比較的近い。県都である長野市に新県立美術館ができることはうれしい。（**中信地区**）
- 子どもの関心は年代によって違う。新美術館はそれぞれの年代にあった場所であってほしい。（**中信地区**）
- 美術館は新しいものを紹介する場でもある。子どもや若者は新しいものに興味を持つので、美術館のそのような面も大事にしてほしい。（**中信地区**）
- 子どもが行きたくなる、子どもの目線に立った美術館にしてほしい。（**東信地区**）
- 館長予定者の松本さんの話を直接聞くことができ、新しい美術館を応援したいと思えたとし、期待する気持ちになった。（**北信地区**）
- 大学の学生や教員にも新美術館の整備に関心を持っている人が多い。平日の夜などなるべく集まりやすい時間帯を選び、より多様な意見が重なり合う場を設けてほしい。（**中信地区**）

【設計全般】

- 設計者は有名でなくてよい。機能性を重視した美術館にしてほしい。（**南信地区**）
- 利用者の声に柔軟に対応してくれる建築家を選んでほしい。（**北信地区**）
- 県下にはたくさん美術館があるが、同じような部屋があってもロスがある。各美術館の特性を考えながら新美術館に必要な施設を考えてほしい。（**北信地区**）
- 新美術館には、東山魁夷館、本館の常設展示室、企画展示室、県民ギャラリーと

4つの展示室ができる。それぞれが独立して機能し、動線がクロスしないつくりにしてほしい。**（東信地区）**

- 陸屋根は亀裂が入りやすく、雨漏りなど施設の管理が難しい。長野県の気候を考えて設計してほしい。**（東信地区）**
- 基本設計の段階でも県民の意見を聴く場を設けてほしい。**（中信地区）**

【周辺整備】

- 善光寺と美術館の回遊性を高める方策を考えてほしい。**（北信地区）**
- 城山公園や善光寺など周辺環境とのつながりや一体感のある開かれた空間に魅力を感じる。美術館は単なる箱ではない、長野市の城山につくった美術館であってほしい。かけがえのない美術環境のすばらしい空間にしてほしい。**（南信地区）**
- 新美術館の整備エリアには大木が何本もあるが、全部切るのはもったいない。建設に支障があるならば移植は考えられないか。または、木を活かした森の中の美術館にして、美術に親しみがない人も来られるようにしたらどうか。**（北信地区）**
- よい美術館をつくっても、多くの人が行かなければ意味がない。善光寺を訪れた人が自然に美術館に足が向くように善光寺の近くからエスカレーターで行けるようにしたらどうか。**（中信地区）**
- 城山公園内には長野市の野外彫刻が16作品ある。城山公園の再整備にあたってはこれらの野外彫刻を多くの方に楽しんでもらえるようにしていきたい。この辺も踏まえて検討してほしい。**（北信地区）**
- 夜は夏に花火をやる若者がいて治安的にあまりよくない。人の目が届かない場所がたくさんできるのは問題である。セキュリティ面の配慮は必要。**（北信地区）**

【コレクション】

- コレクションポリシーの「優れた山岳風景や精神文化に通じる作品を収集する」、「自然と人間」をテーマとした優れた近現代美術の作品を収集する」は、少し分かりづらい気がする。**（北信地区）**

【展覧会】

- これまでの信濃美術館では、現在、アクティブに活躍している芸術家を紹介できていない。基本構想に芸術家との交流が挙げられているので、新美術館に大きな可能性を感じた。**（北信地区）**
- 県内で活躍している芸術家の企画展も開催してほしい。**（北信地区）**
- 飯田は長野からの時間と距離の問題がある。飯田から信濃美術館に行くのも東京

の美術館に行くのも時間はほとんど変わらない。むしろ東京に行ったほうが選択肢も魅力的なものも多い。ぜひ飯田から長野に行きたいと思える企画や提案を期待したい。（南信地区）

【ユニバーサル展示】

- 美術館はこれまで視覚障がい者にとって縁遠い場所であったが、最近は視覚障がい者が美術館にどのように関わられるか研究が進んでいる。信濃美術館でも企画展として「触れる彫刻展」を開催しているが、ぜひユニバーサル展示を常設展示として考えてほしい。触って鑑賞したい気持ちは、障がい者だけでなく健常者にもあると思う。（南信地区）
- 新美術館には、いつでも触ることができる作品を展示してほしい。健常者であっても作品に触ると新たな発見がある。ぜひ検討してほしい。（中信地区）

【芸術家の支援】

- 現代作家が気持ちよく作品をつくれる環境を提供してほしい。（東信地区）
- 県内には美術館がたくさんあるが、若手作家の発表の場がない。若手作家が地元に戻って活動できる支援をしてほしい。（東信地区）
- 陽の当たっていない、埋もれている作家を評価できる仕組みをつくってほしい。（東信地区）
- 信州ゆかりの作家の支援として、10代・20代の若手作家への支援に力を入れてほしい。（中信地区）
- 県として信濃美術館でどのような人材を育てようとしているのか。美術関係の活動をしている人たちが信濃美術館に集えることはうれしく、ぜひ実現してほしい。現在、美術団体の作品展示は貸館に追いやられているが、もっと中心に捉えてはどうか。信濃美術館として芸術家を育てるスタンスが見えるとうれしい。（南信地区）

【美術による学び】

- 今までの信濃美術館では人的な余裕がないため、美術の知識を学ぶことが主体であった。しかし、今は来館者が自ら発見して学び、自らの力で育むことを支援する教育の方法が出てきている。ぜひ、そのようなことができる学芸員やエドゥケーターを増やし、学校教育ではできない教育活動を提供してほしい。（北信地区）
- 新美術館は、次世代育成を全県に展開する拠点になってほしい。そのために、子どもたちのアトリエや展示施設をつくってほしい。県内美術館とネットワークを

結び、新美術館の次世代育成支援の活動を全県的な活動にしてほしい。**(中信地区)**

- 今、子どもたちが美術館に行く機会が少ない。子どもたちの感性をいかに育てていくかを考えてほしい。家族で気軽に行ける美術館にしてほしい。**(東信地区)**
- 県民が美術館を日常的に感じるためにはどうしたらよいか。考えられるのは教育の分野。長野県には芸術大学がないので、信濃美術館で芸術大学並みの技術講習が受けられるとありがたい。そのことが長野県出身の芸術家を育てることにつながるのではないかと。**(南信地区)**
- 南信はいろいろな面で耐えている。ぜひ信濃美術館のよさを南信にも浸透させる方策を考えてほしい。最近の子どもたちは美術や図工でつくった作品のレベルが劣っている。次世代の子どもたちの学びを重視してほしい。**(南信地区)**
- 県内の美術館で子どもたちの作品展を30年来続けているが、最近、出品作品数が少なくなっている。学校教育の中で子どもたちの鑑賞と作品制作をつなげる県単位のプログラムを学校の先生と連携して開発してほしい。**(南信地区)**

【他館や地域との連携・アウトリーチ】

- 県内美術館との関係は勿論だが、世界水準の美術作品の展示を考える上で、日本全国の県立や国立美術館との連携を図りながら、少ない予算を有効に使うことが重要である。**(北信地区)**
- 新美術館は、県内美術館のレベルアップにつながる取組をしてほしい。**(東信地区)**
- 県内各地の美術館はどこも収蔵庫が足りない。信州に残しておきたい作品がある場合、新美術館で収蔵できるようにしてほしい。県立美術館として、そのような裏支えがあってもよいのではないかと。**(中信地区)**
- 県内の小規模美術館では、学芸員が1、2名しかおらず、研修会があってもなかなか参加できない。新美術館には、小規模美術館の学芸員の支援をお願いしたい。また、県内美術館の展覧会企画についても新美術館の学芸員に支援してほしい。**(中信地区)**
- 信濃美術館の作品を借りて自館で展覧会を企画したいが、保険料や輸送費を負担しなければならず予算的に厳しい。経費面の支援をお願いしたい。**(東信地区)**
- 県内美術館にガラスケースを貸し出してほしい。**(東信地区)**
- 新美術館に期待しているが距離的に遠い。新美術館の展覧会を他地域に巡回してほしい。**(東信地区)**
- 県内美術館と連携することはよいこと。新美術館の展覧会が、松本市美術館や飯

田市美術博物館など県内の美術館を巡回するようになるとよい。(中信地区)

- 新美術館の考え方に南信が不在になることを危惧している。南信の人たちもよい美術作品を観たい。いろいろな美術作品を南信に巡回させてほしい。(南信地区)
- アウトリーチ活動は大変なこと。これまでも信濃美術館は学校への鑑賞カードの貸出や学芸員の出張講座など行っている。信濃美術館のコンセプトを共有する中で、南信の美術館学芸員が間接的に取り組めることを考えられないか。(南信地区)
- 信濃美術館の効果が南信に還元されることを期待したい。例えば、講師を派遣して子どもから大人まで美術を勉強する機会を作るなど、信濃美術館の中だけでなく外にも活動を広げてほしい。(南信地区)
- 美術館から門前のまちなかに出ていく活動を充実させてほしい。若手作家と子どもたちとの交流などできるとよい。(南信地区)

【人材確保・体制整備】

- 人材が大切。正規職員を増やすことを考えたほうがよい。(北信地区)
- 御開帳のボランティアに参加した際、来訪者の反応から美術館のPRが足りないと感じた。美術館と来館者をつなぐ広報専門の職員を配置したらどうか。(北信地区)
- 美術館と教育との結びつきを考えてほしい。そのためには、学校と連携が取れる教育担当の専門スタッフが必要である。(東信地区)
- 新美術館は、地域文化のローカルな面と世界水準のグローバルな面を求めている。両面を理解できる広い視野をもった学芸員が必要である。(東信地区)
- 信濃美術館は県立美術館として、長野県で一番の美術館になってほしい。そのためには、学芸員の充実が必要。学芸員は採用されてすぐにできる仕事ではない。10年、20年の積み重ねが必要。非正規で身分が不安定な学芸員が多い状況では難しい。責任を持って仕事ができる体制をつくってほしい。(東信地区)
- 今、世界美術史の視点の組み換えが起ころうとしている。ヨーロッパやアジアには日本のことを学びたい人が多い。海外の研究者との交流や海外のキュレーターとの人事交流を考えたらどうか。(北信地区)

【展示室】

- 常設展示室は、収蔵品を活かす使い方をしてほしい。(北信地区)
- 展示室の使い方として、常設展示室は企画展示室としたほうがよいのではないかと。(中信地区)

【収蔵庫】

- 学芸員は収蔵品がなければ研究ができない。しっかりとした収蔵庫が必要である。
(中信地区)

【県民ギャラリー】

- 県美術展の作品が展示可能な壁面を確保してほしい。(南信地区)
- 基本構想に示された県民ギャラリーの広さでは、美術県展の開催は難しい。美術県展の際には、企画展示室も貸してもらえようような柔軟な運用をお願いしたい。
(中信地区)
- 美術県展は県民である美術愛好家や日曜芸術家が作品を展示・鑑賞できる大切な場。美術県展の作品を展示できる環境に配慮してほしい。(中信地区)
- 県民ギャラリーは、広さはもちろんだが、使いやすさを考えてつくってほしい。
(中信地区)
- トラックヤードから県民ギャラリーまでストレスなく作品の移動ができるようにしてほしい。搬入口は雨がしのげる雨よけがほしい。(東信地区)
- 県美術展などの公募展の際、梱包の箱をバックヤードに保管できると便利である。
(東信地区)
- 県民ギャラリーの近くに作品を審査する部屋があると、審査目的で利用する県民ギャラリーを他団体が利用できるのよい。(東信地区)
- 県民ギャラリーには、工芸や彫刻を展示する展示台を用意してほしい。(東信地区)
- 展示室と県民ギャラリーを分けてつくろうとしていることに評価と期待をしている。県民ギャラリーは展示室のような過度に温湿度管理ができる仕様でなくてよいので、利用料が高くならないようにしてほしい。(北信地区)

【アートライブラリー、アーカイブ】

- 新美術館のライブラリーやアーカイブ機能に期待している。(東信地区)
- 飯田から信濃美術館まで高速バスで往復6時間かかる。信濃美術館の所蔵する美術作品を自宅に居ながら堪能できるようにインターネットで美術作品のディテールまで分かるようにできるとよい。(南信地区)
- アートライブラリーやアトリエは、利用者にとって使い勝手のよいものにしてほしい。(北信地区)

【ショップ、カフェ】

- ショップは2か所必要なのか。スタッフの教育や人員配置が複雑になる。**（北信地区）**
- ショップやカフェは、外から入りやすい場所がよい。美術館のアプローチになるようにしたほうがよい。**（東信地区）**

【集客・アクセス・駐車場】

- 集客のためには、案内表示や交通網を含めて考えたほうがよい。**（北信地区）**
- 飯田から行くことを考慮して、駐車場のスペースを確保してほしい。**（南信地区）**
- 駅から美術館までシャトルバスを運行するなど、人の動線を考える必要がある。**（東信地区）**
- ぐるりん号を信濃美術館まで回るようにしてほしい。**（東信地区）**
- 学校から美術館に行くには、バスなどの交通手段を確保しないと難しい。**（東信地区）**
- 旅行会社から、長野市には善光寺しかないと言われたことがある。善光寺と信濃美術館だけでは弱い。県内の美術館との巡回展や展覧会の共同企画もよいが、長野市近郊の観光スポットとの連携にも取り組んだほうが、旅行会社が商品を企画しやすいのではないか。**（北信地区）**
- 善光寺と美術館では行く目的が違うので、単純に来訪者数で比較しても意味がない。美術に関心がない人に来てもらう方策を考えることが必要である。**（中信地区）**
- 有料ゾーンだけにしてしまうと誰もがアクセスするようにはならない。誰もが立ち寄れる、開かれた明るいイメージの美術館にしてほしい。美術に関心がない人にどれだけ美術館に足を運んでもらえるかを考えてほしい。**（東信地区）**
- 多くの人々が美術館に訪れるようになってほしい。現在の美術館周辺は、夜は暗くて寂しい場所である。建物に映像を投影するプロジェクションマッピングができる施設を考えれば、夜も人が集まるのではないかと。**（北信地区）**

【入館料】

- 飯田から信濃美術館まで高速バスで往復5千円位かかる。南信地区の人向けに優待券やパスポートなどを出すような恩恵があるとよい。**（南信地区）**
- 高齢者への入館料の割引を考えてほしい。東信地区から長野市に行くには交通費がかかる。地域差を補える料金設定にしてほしい。**（東信地区）**

【ボランティア】

- 美術館運営のために、ボランティアグループを立ち上げたらどうか。**(北信地区)**
- ボランティアを募集して、県民が活躍できる場をつくってほしい。県民が美術館の運営を盛り上げる仕組みをつくってほしい。**(東信地区)**

(以上)

信濃美術館整備ミニ・フォーラム in 信州大学 概要

文化政策課 信濃美術館整備室

日 時：平成 29 年 5 月 29（月）午後 6 時 30 分から午後 8 時

場 所：信州大学附属図書館中央図書館セミナー室（信州大学松本キャンパス）

参加者：87 名

概 要

主な意見（アンケートへの回答を含む）

【新美術館の理念、コンセプト】

- 新しい信濃美術館が観光拠点になるような印象を受けた。作品をつくる人、見せる人、観る人は美術に興味がある人であり、この三者の場の外側には、美術館に来ない多くの人がある。美術館に来ない多数の人に対するアクションがあまり見えない。
- 観光客だけでなく、地元に住む人にとって、もっと気軽に立ち寄れる場としての側面があると、より幅広い来館者につながるのではないか。
- あまり芸術の理解や知識のない人でも興味を持ってもらえるとよい。
- 美術館に併設されるミュージアムショップやレストラン等は重要。美術館に興味がない人にとってもそれらを利用することにより、結果的に美術館に通うようになれば美術館のファンが増えることにつながる。
- 美術館は堅いイメージや静かにしなければいけないイメージが強い。若者や子供連れの家族がもっと気軽に入れるような工夫が必要である。
- 松本合庁での意見交換会に参加した際、美術館を自分の作品の発表の場として考えている人が多くいることに驚いた。若い人の中では、美術館は新しいカルチャーやセンスの場として考えている人が多い。カルチャーを学ぶ場だけではなく、自分から美術について考えていく場にしてほしい。
- 今までの「美術館」の概念に捉われない新たな「美術館」の役割を求めたらよいのではないか。また、今の最新の考えで美術館をつくっても数十年後には過去のものになってしまうため、未来を予想した考えも重要だと思う。

【展覧会・コレクション】

- 人も勿論大事だが、作品が一番大切である。アーティストの人間性（個性）をクローズアップ（売り）にし過ぎることが懸念される。
- 若手の現代作家の作品を気軽に観られるようにしてほしい。
- 信濃美術館でしか展示されない作品や構成など特別感があるとわざわざ行きたく

なる。

- 巡回展をたくさん開催するよりも、それぞれの館だからこそできることを企画すべきではないか。その場で観るから価値があるもの、そこに行かなければ観られないものがあるからこそ、人がわざわざそこに足を運ぶのだと思う。
- 県内で現代美術が観られる場所が増えたらありがたいし、県外に出なければ観ることのできない巡回展を観られたらうれしい。
- 巡回展だけでなく、独自の企画展が観たい。
- 東京と同じ展覧会をやっても頭数が少ないため値段が割高になる。長野県だからできるものをやってほしい。
- 美術にあまり関心がない人にとっては、「有名な作品」というきっかけがないと足を運びづらいのではないか。
- 展覧会の開催、展示にスタンプラリーのような楽しい遊びがあればよい。
- 企画展と同じくらいコレクション展示をアピールしたらどうか。
- 善光寺や長野市に引っ張られ過ぎない、「長野県」の美術館としての企画。

【学びの支援】

- 上田市のサントミュージゼのように、小学校へのアーティストの派遣授業など、教育（特に、子供たち）へのアプローチを積極的に行ってほしい。

【他館や地域との連携】

- 県内美術館の中核を担える体制づくりと、オール信州としてのミュージアムをつくってほしい。（例：観光として、全館が分かる本の出版やスタンプラリー）
- まずは是非、第二都市である松本市との企画を行ってほしい。

【施設・設備整備】

- 絵画主義にならないような、広い展示スペースの確保。
- 学芸員不足を補うためにも、来館者の知的欲求を満たすためにも、ユニバーサルデザインの意味でも音声ガイドが必要。
- 古典的なバリアフリーの方法ではなく、見た目にも美しいものがよい。例えば、展示ブロックは見た目の主張が強く、また、車いす使用者にとっては邪魔になりやすい問題がある。
- 善光寺とセットで訪れる高齢者も多いと考えられることから、休憩スペースの充実を期待する。
- 美術・芸術を目的としない学生等の学習スペースとして気軽に来館できるとよい。

- 光を上手に取り入れた明るい雰囲気建物のほうが入りやすい。閉ざされたハコであると、見た目を重視する若い世代を引き込むのは大変だと思う。
- 善光寺とマッチするよう、ガラスを多用しすぎない奇をてらわない建築。
- 洗練された建築が観たい。

【周辺整備等】

- 屋外に子どもやお年寄りが心安らげる広場のようなスペースがあるとよい。
- 長野駅前や善光寺周辺に行くと美術館の存在が感じられるような案内板の整備。
- バスで美術館に行った際、善光寺北のバス停で降りてから美術館に行くのに迷ってしまったので案内表示を工夫してほしい。

【その他】

- 外国人観光客を呼び込むためにも多言語対応が必要である。
- 城山公園や善光寺と共同で行う企画が観たい。
- 美術館に行く手前で、美術に関心を持つような広報をしてほしい。美術が分らない、敷居が高いイメージがあるので、そこを打開する広報が必要。
- チケットの半券で他の施設（信州の文化を体験できる工房など）が割引になるような仕組みはどうか。
- 県土が広い松本、長野、上田などに分館をつくってはどうか。
- 口コミ波及効果への積極的なアプローチ。例えば、各企画展時のプロガー内覧会、常設展示の写真撮影の許可。
- 寄附にクラウドファンディングを活用したらどうか。
- 金沢 21 世紀美術館は、若者は写真を撮って満足したり、兼六園などの観光地に行くついでに立ち寄り、時間がないため奥まで観られない人が多いのではないか。
- 金沢 21 世紀美術館は、SNSの普及による影響があると思う。レアンドロ・エルリッヒのプールで写真を撮る行為、それをインスタグラムにあげ、反応を求める若者が多いと思う。
- 若者が美術館に求めているのはフォトジェニック性があると思う。そちらにより過ぎると薄っぺらいものになるためよくないが、それなりに話題性を持ったものも必要かもしれない。
- 私はコレクション展も観る派ですが、21 世紀美術館の有料ゾーンには入らなかった。無料ゾーンにある作品で満足したこと、観光地としての場所として満足したことが理由です。

(以上)

信濃美術館整備キックオフ・フォーラム 概要

文化政策課 信濃美術館整備室

日 時：平成 29 年 7 月 15（土）午後 2 時から午後 4 時 30 分

場 所：長野市若里市民文化ホール

参加者：120 名

概 要

主な意見等（アンケートへの回答を含む）

【全体】

- 観光客にとっての美術館、地元の人にとっての美術館、ともに魅力を感じるためにはどうすればよいか。
- 人が集まる、人が来たくなる美術館に必要な要素は何であるか。
- 安定的な入館者数を維持するには、どのようなことを考えているのか。
- これからの美術館の社会的役割についてお聞きしたい。
- 県民が芸術的なものに触れる機会がもっと増えるように、また、生活の中に芸術が身近なものになる活動を期待している。
- これからの美術館は、観せる、触れることを一方的に主張する運営では受け入れ側が限定される。様々な目的を持った来館者が、自らの意識を、自らが捉え直していく能動的な動きとなるコンセプトが必要。「学び」も、教える色彩が強いと若手に引かれてしまう。建物と同様、コンセプトや運用面を早めに検討し、地域、県民、来訪者にとっての美術館の方向を決めてほしい。
- 善光寺と一緒にあった観光誘客を期待している。
- 美術館の指標として、来館者数は無視できない。今後の議論に期待する。

【基本設計に向けて】

- 50 年後も古さを感じないような善光寺とその周辺の景観と一体化した美術館をつくってほしい。ランドスケープをテーマとした美術館を目指してほしい。
- 新しい美術館の耐用年数はどの程度を想定しているのか。
- 屋上の最上階と城山公園や善光寺のレベルとの感覚的な距離をつないでほしい。
- ハード面だけでなく、ソフト面も善光寺とのつながりがほしい。例えば、善光寺の宝物館の機能を美術館に一部取り入れることができれば一体的なつながりが生まれるのではないか。
- 信濃美術館と城山公園の整備を一緒に行うことは賛成。夏の夜に美術館の壁に映

画を投影するイベントを行うとたくさんの人で賑わうのではないか。

- 地元生まれ育って 80 年になる。城山公園や信濃美術館の環境重視に力を注いでほしい。憩いの場ができる日を楽しみに長生きしたい。
- 県立美術館であることを考慮すると城山公園の噴水にこだわりすぎると将来に禍根を残すのではないか。広い視点で長野市と調整すべきである。
- 善光寺から美術館のファサードが見えるようにしてほしい。
- 観光客が善光寺とともに足を運ぶような美術館にしてほしい。
- 長野駅からの動線（交通手段）をどのように考えるのか知りたい。
- 長野駅にきた人が、長野電鉄に乗り継ぎ、善光寺下駅で下車し、そこから階段で美術館に行けるルートを整備してほしい。
- 駐車場スペースを考えてほしい。
- 敷居の高くない美術館の具体的なイメージを知りたい。
- フォーマルな雰囲気で見学と、子どもからお年寄りまで気軽に学べる空間が同居した美術館。時間ごと、空間ごとに区切ってもよいのではないか。
- 美術に興味がない人でも訪れて楽しめる美術館にしてほしい。
- 展示を観るだけの美術館ではなく、建物のつくりやデザインなど他の楽しみを感じられる場所にしてほしい。
- おしゃれなカフェがほしい。城山公園周辺には飲食ができる場所がない。素敵な美術品を観て、おいしいワインを飲めたらよい。
- 気軽に入ることができパブリックゾーンを見て回れるような開放的な外構がよい。
- エントランスロビーに長野県の情報や他の美術館の情報が入手できるコーナーを設けるとよい。
- 美術団体等が使える展示スペース（多目的ホール）について配慮してほしい。県展クラスは一堂に展示できる施設を望む。
- 地元の児童・生徒が親しめる美術館にしてほしい。
- 次世代育成に関する美術館の考えを聞きたい。次世代育成事業を全県下で展開するための拠点施設になってほしい。
- 長野県は森林県なので、建物への県産材の活用を検討してほしい。

(以上)